

第430号

発行
浄土真宗
心光寺
奥原曇龍
倉敷市早高426
☎(086)420-1311



コツコツだよ



カット：本多紘子

秋も一段と深まり、霜の降りる季節となってきました。日足もずいぶん短くなり、散りゆく木の葉に寂しさを感じるこの頃ですが、皆様お元気でいらつしやいますでしょうか。

今年(こゝし)は酷暑(こくしよ)の夏(なつ)が長引き、稲穂(いなほ)が異常(いじよう)な暑さ(なつ)で実入り(みいり)が悪い(わるい)と聞いていました(い)たが、岡山(おかやま)県南(けんなん)では豊作(とんぱく)だと聞き(き)、安心(あんしん)しました(し)た。昨年(さくねん)の夏(なつ)頃(ころ)から日本(にっぽん)人の主食(しゅじき)である米(こめ)が値上(たか)がり始め(はじめ)、秋(あき)になると新米(しんまい)が出始(で)めるので米価(こめ)も収(おさ)まると聞(き)いていました(い)ました。しかし(しか)し供給(ききやう)不足(ふそく)で今年(こゝし)にな(な)っても一向(いっこう)に価格(かかく)は収(おさ)まらず(はず)米価(こめ)が前年(ぜんねん)より倍(ばい)となり、政府(せいふ)は備蓄(びちく)米(まい)を取(と)り崩(くず)して対処(たいじょ)しました(し)た。令和(れいわ)の米騒動(こめそうどう)もよう(よう)やく静(しず)まりかけ(かけ)てい(い)たのに、今年(こゝし)の酷暑(こくしよ)で米(こめ)が不作(ふさく)とな(な)れば、米価(こめ)が一段(いちだん)と高(たか)くなると心(こゝろ)配(くわ)していま(いま)した(し)たが、ほん(ほん)のチョッ(ちよっ)ピリ安(やす)心(しん)です(す)。

日本(にっぽん)の国(くに)は昔(むかし)から瑞々(みずみず)しい稲(いね)の穂(ほ)を産(う)する「瑞穂(みずほ)の国(くに)」と呼ば(よ)ばれていま(いま)した(し)た。日本(にっぽん)人は米(こめ)が主食(しゅじき)だと言(い)われていま(いま)すが、昔(むかし)からお米(こめ)は上(う)流階級(じゆうかいきゅう)の人(ひと)しか食(た)べられ(られ)なくて、一般(いへん)の農(い)民(みん)は稗(ひ)や粟(あわ)や蕎麦(そば)を食(た)べていた(いた)と聞(き)いていま(いま)す。白(しろ)いお米(こめ)が食(た)べられた(られた)のはお正月(おしょうげつ)ぐら(ぐら)いだ(いだ)った(った)とも聞(き)いていま(いま)す。日本(にっぽん)人(ひと)一般(いへん)が(が)お米(こめ)を日(に)常(じょう)的に食(た)べられ(られ)出した(だ)したのは昭和(しやうわ)30年(さんじゅうごごねん)(1955年)頃(ころ)にな(な)って(って)から(から)です(す)。日本(にっぽん)の産(さん)業(ぎやう)構(こう)造(ぞう)が変(か)わり、

農家(いんげ)の次男(じきなん)や三男(さんなん)が都会(とけい)の工場(こうじやう)や職場(しやまば)に勤(つと)め、給料(ききやうりやう)を貰(もら)い、少(す)しずつ豊(とよ)かにな(な)って(って)いき、毎日(まいにち)お米(こめ)が食(た)べられる(られる)よう(よう)にな(な)った(った)のです(す)。

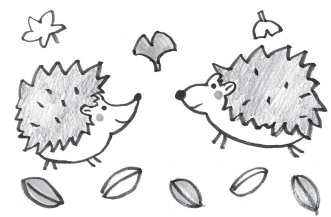
最近(さいきん)は農家(いんげ)の後継者(こうけいしや)が減(へ)っています(います)。兼業農家(けんぎやうのうか)の方(かた)たちは田植機(たうえき)、トラクター(トラクタ)、耕運機(こううんき)、コンバイン(コンバイン)(稲刈り機(いねかりき))の機(き)械(が)代(だい)と肥(ひ)料(りやう)代(だい)に追(お)わ(わ)れて儲(も)から(ら)ず、大(お)型(がた)農(い)業(ぎやう)を指(さ)す人(ひと)に水田(みづで)を貸(か)すよう(よう)にな(な)りま(ま)した(し)た。農(い)業(ぎやう)用(よう)地(ち)も住(す)宅(たく)地(ち)や大(お)型(がた)倉庫(くら)地(ち)とな(な)り減(へ)り続(つづ)けていま(いま)す。儲(も)かる儲(も)か(か)ら(ら)ない(ない)とい(い)う見(み)方(か)も切(せつ)実(じつ)です(す)が、水田(みづで)が日本(にっぽん)の美(うつく)しい里山(さとやま)をこ(こ)し(し)ら(ら)え、維(い)持(じ)して(して)いま(いま)すの(の)を知(し)って(って)いま(いま)すか。山(やま)に降(ふ)った雨(あめ)水(みづ)が湧(わ)き出(で)て(て)き(き)て(て)小(こ)さ(さ)な水(みづ)の流(なが)れを池(いけ)にせ(せ)き止(と)め、田(で)に流(なが)し、また(また)田(で)の水(みづ)を諄々(しんしん)と下(した)の田(で)に流(なが)し、小溝(こみぞ)を流(なが)れ、や(や)が(が)て小(こ)川(がわ)とな(な)り、大(お)き(き)な川(がわ)とな(な)って(って)い(い)き(き)ま(ま)す。山(やま)に降(ふ)った雨(あめ)を池(いけ)でせ(せ)き止(と)め、少(す)しずつ下(した)流(なが)に流(なが)して、災(さい)害(がい)防(ぼう)止(し)の役(やく)目(め)も担(にな)って(って)いま(いま)すの(の)が日本(にっぽん)の稲作農家(いねさくいんげ)な(な)のです(す)。日本(にっぽん)の美(うつく)しい里山(さとやま)こそ(こそ)が、下(した)流(なが)に住(す)む人(ひと)々(々)の生(せい)活(くわく)用(よう)水(みづ)に貢(こう)献(けん)して(して)いま(いま)すの(の)です(す)。

10月(じゅうがつ)6日(にち)にスウェーデン(スウェーデン)のカロリンスカ(カロリンスカ)研(けん)究(きゅう)所(じょ)は、今(こゝ)年(ねん)のノーベル(ノーベル)生(せい)理(り)学(がく)・医(い)学(がく)賞(しょう)を、大(お)阪(おさか)大(だいがく)学(がく)の坂口志文特任教授(さかぐちしもんとくにんきょうじゆ) (74)らに贈(おく)ると発(は)表(ひょう)しま(ま)した(し)た。業(ぎやう)績(せき)は「免(めん)疫(えき)が制(せい)御(ぎよ)さ(さ)れる仕組(しぐみ)の発(は)見(けん)」です(す)。病(びやう)原(げん)体(たい)を攻(こう)撃(げき)する免(めん)疫(えき)細胞(さいぼう)の中(なか)に、免(めん)疫(えき)反(はん)応(おう)の暴走(ぼうそう)を止(と)めるブ(ブ)レーキ(ブレーキ)役(やく)の「制(せい)御(ぎよ)性(せい)T細胞(T細胞)」を發見(はつけん)しま(ま)した(し)た。この細胞(さいぼう)の働(はたら)き(き)が弱(よわ)まると、免(めん)疫(えき)細胞(さいぼう)が体(たい)内(ない)の正(せい)常(じょう)な組(ぐみ)織(し)を攻(こう)撃(げき)して自(じ)己(こ)免(めん)疫(えき)疾(し)患(わん)な(な)ど(ど)の病(びやう)氣(き)にな(な)ること(こと)を突(つ)き止(と)めた(めた)のです(す)。関(かん)節(せつ)リウマチ(リウマチ)な(な)ど(ど)の病(びやう)氣(き)が免(めん)疫(えき)疾(し)患(わん)です(す)。

10月(じゅうがつ)8日(にち)にはスウェーデン(スウェーデン)の王立科学アカデミー(おうりつかがく)が、今(こゝ)年(ねん)のノーベル(ノーベル)化(か)学(がく)賞(しょう)を京(きやう)都(と)大(だいがく)学(がく)の北川進特別教授(きたがわすすむ) (74)らに贈(おく)ると発(は)表(ひょう)し、坂(さか)口(ぐち)教(きやう)授(じゆ)に続(つづ)いて(いて)のノーベル(ノーベル)賞(しょう)は嬉(うれ)しいこと(こと)です(す)。地(ち)球(きゅう)温(おん)暖(だん)化(か)の原(げん)因(いん)にな(な)る二酸化炭素(にさんかたんそ)の回(かい)収(しゆう)な(な)ど、様(よう)々(々)な環(かん)境(きやう)問(もん)題(だい)の解(かい)決(けつ)につな(つな)がる可(か)能(ねい)性(せい)が(が)あ(あ)る「金(きん)属(ぞく)有(ゆう)機(き)構(こう)造(ぞう)体(たい) (MOF)」を開(かい)発(はつ)した業(ぎやう)績(せき)が評(ひやう)価(か)され(され)た(た)ので(ので)す(す)。日本(にっぽん)のノーベル(ノーベル)賞(しょう)受(う)賞(しょう) (米(まい)国(こく)籍(せき)を(を)含(む))は30人(さんじゅうにん)目(め)とな(な)り、素(す)晴(は)ら(ら)しいです(す)ね。人(にん)生(せい)はコツコツ(コツコツ)が(が)大(お)切(せき)です(す)。私(わたし)たち(たち)も死(し)ぬ(ぬ)ま(ま)で人(にん)間(かん)ら(ら)しく(しく)、コツコツ(コツコツ)、コツコツ(コツコツ)、自(じ)分(ぶん)を大(お)切(せき)に生(せい)き(き)よう(よう)よ。合(がっ)掌(しょう) (奥(おく)原(げん) 曇(とん)龍(りゆう))

*心の悩み・信仰の相談は月曜日から木曜日の午前中に気楽にお電話下さい。

『褒められても褒められなくても人間は コツコツ生きよう自分らしく』 どんりゅう



カット：府川 綾

ともしび説法

日時・十一月三日(月)・午後一時から四時頃まで。
秋の報恩講・永代経法要 儀式・仏教講演
場所・倉敷市早高426 新本堂 電話086-420-1311

ともしびを読みたい方、お寺についてもっと知りたい方 [心光寺](#) [倉敷](#) [検索](#)



お釈迦様ものがたり 109

古代インドのワツジ国からマツラー国に入られたお釈迦様と従者のアーナンダは、やがて大きな河であるカクツター河に達し、そこで沐浴をして休憩します。

鍛冶師チユンダの出した食事に消化不良を起こして、下痢で苦しんでいた80歳のお釈迦様は沐浴をした後に、きれいな水を飲み、近くの樹下で上着を敷いて横臥されました。

このとき、鍛冶師のチユンダが、お釈迦様の入滅を聞いて、自分の供養した食事が原因で、お釈迦様が亡くなられたのでは無かろうかと、後悔し悲嘆することの無いように、お釈迦様は、仏に対する成道時(悟った時)の最初の食事と、入滅(死)前の最後の食事との二つは、あらゆる供養の中で最上のものがあり、最大の功德があると言うことを一比丘に命じて、チユンダに告げさせられました。

苦痛の際にもかかわらず、お釈迦様の行き届いた心やりの奥ゆかしさが知られます。幾分疲労が回復したお釈迦様は、ゆっくりと歩みを進め、ようやくにしてクシナーラー(クシナガラ)のサーラ林に行かれた。そしてアーナンダに命じて、双樹の下に、頭を北に向けて、床を敷かせられた。お釈迦様はそこに頭北面(頭を北に、顔は西向き)、足は南にして静かに横臥されました。右脇を下にしたのも心臓に負担をかけないという意味があると同時に、頭北は頭を北側にして頭を冷やし、足は南側にして足を温めるといふインドの健康法でもあり、顔を西に向けるというのは日が沈みゆく方向は死を意識して悔いの無い人生を歩めという教えでもあります。

サーラ(沙羅)林の木々たちが、お釈迦様の涅槃(死)を感じ、時ならぬ花が咲き開いたといわれています。お釈迦様の入滅(死)は何月頃であったかというのは定かではありませんが、南方伝では誕生も、成道も、入滅も5月頃となっています。合掌 (奥原曇龍)

柿掬いで命寂しき小枝かな 御恩御恩と鐘の音響く 田辺多恵子



10月4日 総代さんたちによる仏具みがき

ともしび法話

晩秋の日は早く沈む。稲刈りが終わった水田は、黒い大地が何か寂しそう。猛暑が秋まで続きましたが、皆様お元気ですか。私も8月1日に第二子の男の子を無事に出産して養生していましたが、10月1日からお寺の仕事を復帰しています。11月3日の秋の法要には、皆様ぜひお参り下さい。心光寺新坊守(ほうもり) 府川 綾

朝夕少し涼しくなってきました。早いもので、曇龍先生の奥様であった博子坊守様の三回忌法要を11月3日の秋の法要のときに兼ねるようですが、そろそろ丸二年となり、今から、ここから、頑張ってください。 総社市駅前 細川カヨ子

11月3日(月)は心光寺の秋の報恩講法要が午後からあり楽しみにしています。御先祖様を偲びつつ、親鸞聖人の生き方から悔いの無い人生を歩みたいと思います。 倉敷市藤戸天城 福原 浩子

「報恩講親鸞聖人偲びつつ いつまで生きてもいつ死んでも良し」 倉敷市中島 山田 孝治

報恩講親鸞聖人偲びつつ 倉敷市中島 山田 孝治

ともしび説法

日時・十一月 三日(月)・午後一時から四時頃まで。

秋の報恩講・永代経法要 儀式・仏教講演

場所・倉敷市早高四二六 心光寺(しんこうじ) 本堂にて

電話・(086)420-1311 駐車場有り

(宗派をとわず、まじめに人生を考えているあなたに参加していただきたいのです。)

○ともしび説法・お寺の行事予定

十二月 十八日(木)・午後一時半から四時まで・早高の本堂。

一月 一日(月)・午後一時半から四時まで・早高の本堂。

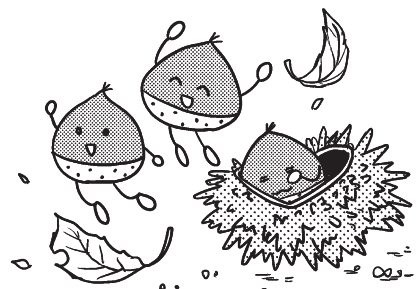
二月 十八日(水)・午後一時半から四時まで・早高の本堂。

☆『ともしび』を、平成27〜29年、平成30〜令和2年、令和3年〜令和5年と三年ごとにまとめて本としました。毎月1回のお寺の新聞が本となって、過去の忘れていたニュースを思い出し、人生をふり返れます。まとめた本が欲しい方は実費でお分けします。

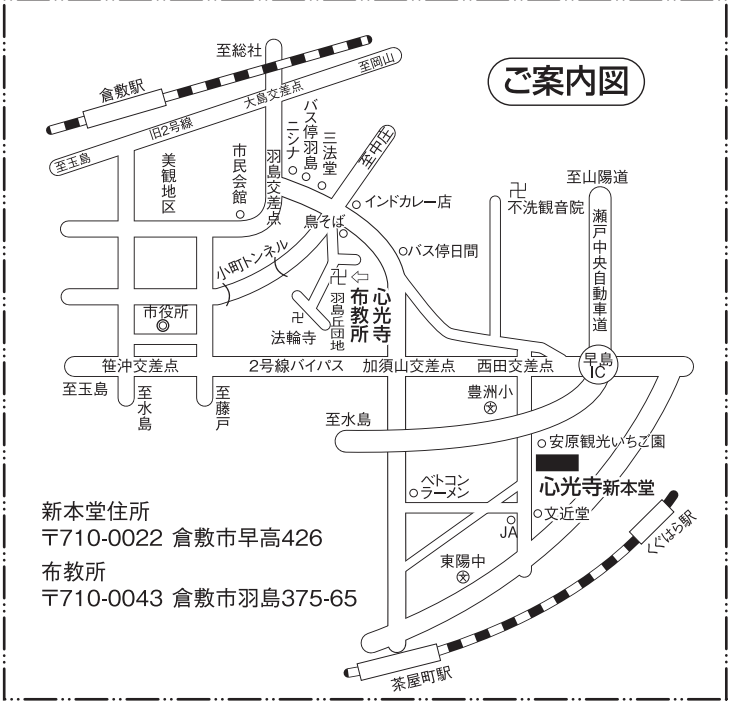


いころの詩

晩秋はなぜか寂しい 枯れ葉が風に舞って庭で遊ぶ 木々は冬の準備で忙しそう 熊もイノシシもリスも忙しそう 景色は季節によって変化し 心ウキウキしたり寂しくもなる 晩秋は私を哲学者にする



カット:吉岡美枝



新本堂住所 〒710-0022 倉敷市早高426
布教所 〒710-0043 倉敷市羽島375-65

◎ともしび制作費に御寄付ありがとうございました。

倉敷市 立石様 3千円
千代市 松尾浩文様 2万円

浄土真宗心光寺についてもっと知りたい方 お寺や『ともしび』について知りたい方

心光寺 倉敷 検索

〒710-0022 倉敷市早高426

浄土真宗(じょうどしんしゅう)心光寺
TEL(086)420-1311 FAX 420-1322
携帯電話 (090)-2297-2504

★『ともしび』の毎月発行も、お陰様で「430号」となりました。心光寺は、誰でも気軽に来られる「心の雨宿りのお寺」を目標に頑張っています。11月3日の秋の報恩講・永代経法要の日には倉敷駅銀ビル横の駐車場に11時50分、茶屋町駅西口に12時10分にお寺より自動車でお迎えに行きます。自動車の送迎が必要な方は心光寺までご連絡下さい。合掌 総代長 本家豊彦